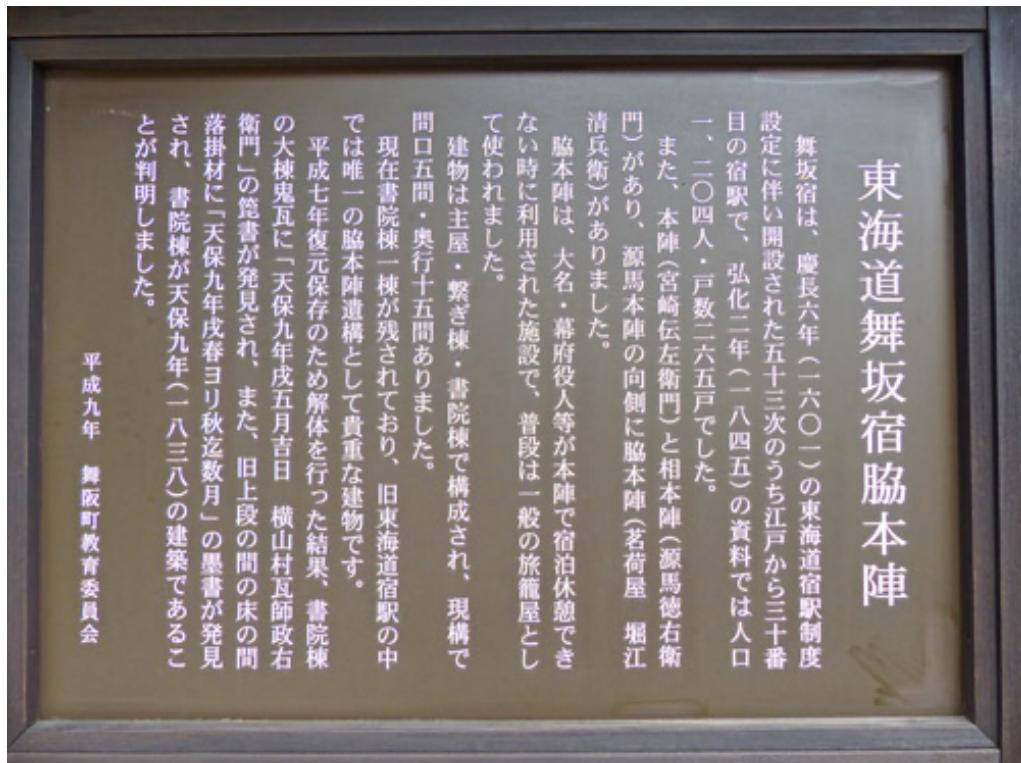


7837 **kuraku 久楽 東海道 53次：舞坂宿・脇本陣 362**



舞坂宿は、慶長六年（一六〇二）の東海道宿駅制度設定に伴い開設された五十三次のうち江戸から三十番目の宿駅で、弘化二年（一八四五）の資料では人口一、二〇四人・戸数二六五戸でした。

また、本陣（宮崎伝左衛門）と相本陣（源馬徳右衛門）があり、源馬本陣の向側に脇本陣（茗荷屋 堀江清兵衛）がありました。

脇本陣は、大名・幕府役人等が本陣で宿泊休憩できない時に利用された施設で、普段は一般の旅籠屋として使われました。

建物は主屋・繋ぎ棟・書院棟で構成され、現構で間口五間・奥行十五間ありました。

現在書院棟一棟が残されており、旧東海道宿駅の中では唯一の脇本陣遺構として貴重な建物です。

平成七年復元保存のため解体を行った結果、書院棟の大棟鬼瓦に「天保九年五月吉日 横山村瓦師政右衛門」の篆書が発見され、また、旧上段の間の床の間落掛材に「天保九年戊春ヨリ秋迄數月」の墨書が発見され、書院棟が天保九年（一八三八）の建築であることが判明しました。

平成九年 舞坂町教育委員会



# 山はみどり 野に花 人にはこころ

